

令和元年度 第2回北播磨採択地区協議会 議事録（要旨）

- と き 令和元年7月9日（火）13：00～18：15
- ところ 三木市立教育センター 大研修室
- 出席者 北播磨採択地区協議会委員10人、各調査員会代表2人

【次 第】

- 1 開会
- 2 調査員会等報告及び協議
- 3 閉会

1 開会（会長あいさつ）

北播磨採択地区協議会では、54人の調査員に、3回にわたって教科書の調査研究に取り組んでいただいた。教科書の調査研究は、教科書の適正な採択を行う上で欠くことのできないものである。調査研究にご尽力いただいた調査員の皆様に心から感謝申し上げます。

各市町教育委員会は、本協議会の協議の結果に基づき、種目ごとに同一の教科書を採択することになっている。委員の皆様におかれては、北播磨の子どもたちに適した教科書を選定していただきたい。

2 調査員会等報告及び協議

事務局から教科書展示会場アンケートの内容について報告した。続いて、各市町教育委員会から、教育委員の意見の報告があった。

次に、各調査員会代表2人による調査研究結果の報告を受けた。その後、協議会委員から調査員への質疑応答（本議事録（要旨）には、質疑・応答のみを掲載）があった。

質疑応答終了後、協議会委員の協議により、各教科の教科書を選定した。（発行者名は、文部科学省が作成した「小学校用教科書目録」及び「中学校用教科書目録」による略称を使用している。）

（1）国語（書写）

① 国語

Q. 1番目に推薦するのは「光村」ということだが、2番目に推薦するとしたらどこの教科書か。

A. 「東書」。

Q. 「東書」と「光村」を比べたときに、やはり「光村」の方がよいと考えたのはなぜか。

- A. 「たしかめよう」「考えよう」「ふかめよう」「広げよう」の4つの段階を経て学んでいく構成になっているのが良かった。教材に関しては少し「東書」の方が難しいという印象だった。「光村」の段階的に学んでいく学び方が一番のポイントになった。
- Q. 教科書は重たくはないか。分冊の方がよいのではないか。
- A. 分冊のことについては調査員会でも話題になった。各学校では、重たいときは置いて帰るなど、いろいろな対応がされ始めているので、今回は重さではなく内容で判断した。
- Q. 最終的にどのような決め方で推薦図書を決めたのか。
- A. 調査員が低学年担当、中学年担当、高学年担当と担当を分けて調査をした後、どの教科書が良いか話し合った。話し合っていく中で、調査員全員一致で決定した。
- Q. 「光村」の報告の中に『ことばのたいせつ』や脚注に情報量が少ない。」とあったが、情報量が少ないということは心配ではないか。
- A. 情報が書かれていて説明がしてあることで学習は進めやすいが、書いていないことで、「調べる」という学習活動も生まれる。だから、この点については良し悪しがあるものだと思う。「光村」は、他社と比べるともう少し情報量があってもよいのではないかという話が出た。しかし、推薦図書を決める上で、その点についてはそこまで重きを置かなかった。
- Q. 「光村」の報告書の最初に『とらえる』『深める』『まとめる』『広げる』の4段階で、学びの組み立てが一貫している」と報告されている。「教出」の報告書の最初にも、『たしかめよう』『考えよう』『ふかめよう』『広げよう』の4ステップの組み立てが一貫していて、丁寧に構成されている」と報告されており、調査を進める上で大切な観点としたのだと感じられる。こういう観点は、授業を進める上で重要なものと考えたのか。
- A. 「この学習をこう進めていこう」という見通しを持つことは重要だと考える。「光村」はすべてこのパターンで構成されている。他社も同じように学びのステップをつくっているが、比較すると「光村」が細かく構成されていて子どもたちにとって分かりやすいと考えた。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「光村」を選定した。

② 書写

- Q. 左ききの子のための配慮は大切なことだと感じている。「東書」の報告の中に「左ききの配慮がしてある」とあるが、それはどういうことか。左手でも右手の場合と同じように「とめ」や「はらい」についての説明が書かれているのか。
- A. 例えば、5年生の5ページ。「左手で書く場合、用具を左右入れかえるとよい」と書かれている。教科書に書かれてあるのはこの程度だった。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「日文」を選定した。

(2) 社会 (地図)

① 社会

- Q. 3年生で初めて社会科を学習する。「日文」は兵庫県の姫路から学習に入っていくので魅力だと感じるが、その点について話題にはなったのか。
- A. 話し合いの中で、兵庫県を扱っているのは魅力的であるという話にはなった。しかし、日文の教科書は「～について話し合いました。」というような投げかけの形で全ての単元が始まり、その後資料を読み取って学びを進めていくという流れの構成になっている点が他社とは違うと感じた。投げかけてしまうことで、習得しないといけない知識が、子ども任せになってしまうのではないかと考えた。
- Q. 他の発行者は候補に挙げたのか。
- A. 「教出」が候補に挙げた。「教出」は、資料の情報量が充実していると感じた。「東書」も資料はとても詳しく、上下巻に分かれていることでそれぞれに内容量がうまく配分されており、教科書の重さもよく配慮されていると考えた。
- Q. 「東書」の教科書に出てくるキャラクターについてはどう考えたのか。
- A. 子どもたちにとって親しみやすく、学習への興味づけには非常に有効であると考えた。
- Q. このキャラクターを活用することで、社会的な見方や考え方が一貫して身についていくと考えられるか。
- A. どの学年でも同じように、キャラクターを通して社会的な見方や考え方を身につけるヒントが与えられており、社会的な見方や考え方を身

につける助けになると考える。

Q. 歴史的な分野について、近代についてはどの教科書も同じような流れになっているのか。

A. 大きく違いは感じられなかった。「教出」は客観的に書かれていると感じられた。「東書」は国民目線の書かれていると感じた。「日文」は「資料からわかること」という書き方になっていた。

Q. 最近の日本史をめぐっては、いろいろ見直しもあるが、そういう内容は反映されているのか。

A. 以前の教科書と見比べると反映している部分はある。しかし、発行者によって扱いが違うということは感じられなかった。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「東書」を選定した。

② 地図

Q. 社会科の教科書は「東書」を推薦されている。その教科書の特徴として「地図、地球儀と連動させた学習」とあったが、社会科の教科書とは違う発行者の地図帳を選定することで、学習に支障をきたすことはないのか。指導しにくいということはないのか。

A. 2社の地図帳については、内容が大きくちがうということはないので、指導しにくいということはないと思う。それよりも、新学習指導要領において、3年生から地図帳を用いた学習が始まるということを調査員会では重視した。その点において、「帝国」の地図帳は、地図の約束のページが分かりやすく充実していた。

Q. 2次元コードのコンテンツにちがいはあったか。

A. 「帝国」の方が、多くのページにコンテンツのメニューが設定されていた。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「帝国」を選定した。

(3) 算数

Q. 「啓林館」の報告に「基礎基本の問題が充実している」とあったが、どういうところでそう判断したのか。

A. 単元の最後には見開き1ページを復習の問題に充てている。また、巻

末には、単元前の準備や単元を復習するための「もっとれんしゅう」が設定されている。問題数が多く、さまざまな問題パターンに触れることができ、基礎基本の充実には効果的であると判断した。

Q. 2番目に推薦するとしたらどこの教科書か。

A. 「東書」。「東書」の教科書は、発展的な問題が取り上げられていた。

Q. 算数の教科書は、発行者によって難易度がちがうように感じられるが、調査員会でそういう議論はあったのか。

A. 発展的な問題を多く扱っている教科書もあれば、発展的な問題を少なめにして基礎基本の充実を図っているような教科書もあった。「啓林館」は、基礎基本をベースにしているように感じた。

Q. 「啓林館」は、発展的な学習が弱いと考えられないか。

A. 他者と比較すると、どうしても発展的な問題は少なくなってしまうと思う。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「啓林館」を選定した。

(4) 理科

Q. 理科として「主体的・対話的で深い学び」という点において、優れているのはどの教科書で、なぜそれがよいと言えるのか。

A. 優れているのは「啓林館」。「啓林館」の「もっと知りたい」は、児童による課題設定ができるようになっている。課題に取り組む中で生まれた疑問が、次の課題につながるようになっており、系統的に単元の内容を学習できるようになっている。

Q. 実際に実験をしてみて、子どもたちが「もっとやってみたい」という内容になっているか。

A. そういう内容になっている。例えば、6年生の植物の学習で、植物に青い水を吸わせると葉が青くなるということを学ぶ。その上で、教科書には「レインボーフラワー」が紹介されており、子どもたちは「次はこれをやってみたい」と興味関心を持つのではないかと思う。

Q. 「啓林館」の報告の中に、「ものづくりに関する内容が少ない」とあったが、具体的にはどういうことか。

A. 3年生については、「理科を楽しむ」という観点から、どの教科書も

ものづくりについては充実しており、おもちゃづくりを通して、科学的な事象や自然事象を学んでいく構成になっている。4年生についても各社に大きく差はない。5年生から「啓林館」は他社に比べてものづくりが少なくなっている。ただし、それはプログラミング教育の内容によって補われているように感じる。

- Q. 「東書」の報告の中に、「意見が出すぎて、子どもたちから発想しにくい。」とあるが、意見が出るのは良いことではないのか。
- A. 教科書に考察の過程が書かれすぎているということを「意見が出すぎて」と表現した。理科では、考察をする中で実験結果から子どもたちが自分で考えるということが大切だと考えている。「東書」は、考察の過程が教科書に記載されているので、自分で考える力を養うことが難しいのではないかと考えた。

- Q. デジタルコンテンツについては、発行者ごとに特徴はあったか。
- A. デジタル教科書で補える部分もあるので、特に発行者による大きな違いは感じなかった。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「啓林館」を選定した。

(5) 生活

- Q. ジェンダーフリーについてランドセルに注目して見ると、「啓林館」の教科書は、男の子のランドセルは黒で、女の子のランドセルは赤と決められているように感じるが、問題はないのか。
- A. ランドセルの色だけを見ているのではなく、総合的に判断している。例えば、男児が赤い服を着て、女児が青い服を着ているイラストもある。また、「まちたんけん」で掲載されている警察の方は、他社は男性ということが多いが、「啓林館」は女性が掲載されている。学校行事の様子には、母親だけではなく父親や祖父が参加しているなど、多様に扱われている。

- Q. 2番目に推薦するとしたらどこの教科書か。
- A. 「大日本」。

- Q. 「大日本」は、「啓林館」とはどれくらいの差があったのか。
- A. 「大日本」も子どもたちが主体的に考えられるような資料が多く、優れた教科書だと評価しているが、子どもにとっても、経験年数の浅い教

師にとっても、学習をより進めやすいのは「啓林館」であると判断した。

Q. 「啓林館」が特に優れているところはどこか。

A. 「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階構成になっており、子どもたちが見通しをもって学習に取り組むことができる。また、低学年の児童にとって、より自分たちの生活と結び付けて考えやすい構成になっている。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「啓林館」を選定した。

(6) 音楽

Q. オーケストラについて、「教出」は5年生で、「教芸」は6年生で扱われている。このちがいについてどう考えたのか。

A. 学習する内容は、1・2年、3・4年、5・6年と、2年ごとのまとまりで学習することになっている。「教芸」は、木管楽器→金管楽器→弦楽器→オーケストラと、系統的に学んでいくように構成されており、丁寧に学んでいけると思う。「教出」は、先にオーケストラの写真が示されているが、初めに少し難しい内容が示されて、それに向かって取り組んでいくように構成されている。子どもの実態から考えると、スモールステップで積み上げていく「教芸」の方がよいと考える。

Q. 発行者は2社だが、調査員は全会一致で「教芸」を推薦したのか。

A. 全会一致で推薦している。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「教芸」を選定した。

(7) 図工

Q. 2社の差は僅差であったのか。

A. 本当に僅差であった。どちらもよく作りこまれているという印象だった。学習指導要領にも即しており、ひょうご教育創造プランに則って見ても、本当によく作られていると感じた。

Q. 調査員会ではどのように推薦図書を決定したのか。

A. それぞれの長所短所をピックアップしながら、話し合っで決定した。内容は僅差であったが、「開隆堂」は「立体、工作に表す活動」と「造形遊びをする活動」の題材がやや少なかった。一方、「日文」は「絵に

表す活動」の題材がやや少なかった。北播磨地区は絵に表す活動が非常に熱心である。その実態を踏まえると、「造形遊びをする活動」や「立体、工作に表す活動」がさらに充実することで、子どもたちの力がさらに伸びていくのではないかと考えた。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「日文」を選定した。

(8) 家庭

Q. 発行者は2社だが、観点別に見ても、総合的に見ても「開隆堂」の方が良かったのか。

A. 資料等の情報量で比較すると、「東書」の方が豊富で優れていると感じた。しかし、その点については、2次元コードによるコンテンツで補うこともできるので、総合的に「開隆堂」の方が良いと判断した。

Q. 調査員は全員一致で「開隆堂」を選んだのか。

A. 全員一致で選んだ。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「開隆堂」を選定した。

(9) 保健

Q. 2番目に推薦するとしたらどこの教科書か。

A. 「東書」。「東書」は内容が多いためページ数も多いが、「光文」に無いという部分はあまり無かった。内容が多いので網羅されているとは思いますが、その分、指導時間の中でやや無理が生じるということが懸念された。

Q. 「光文」が改善されればよいという点はあるか。

A. 他社の図書のように兵庫県に関しての写真が紹介されていたら、児童が学習をより身近に感じることができるのではないかと感じる。

Q. 調査員は全員一致で「光文」を選んだのか。

A. 最終的には全員一致で選んだが、「光文」のほかに、「学研」と「東書」も候補に挙がった。「東書」は、3・4年の教科書ではあまりちがいは感じられなかったが、5・6年の教科書を見ると、少し内容量が多いと感じた。「学研」は資料の見やすさで魅力が感じられたが、最終的には、「光文」は総合的にバランスが良く使いやすいと感じられた。

Q. これからは性の多様性について学校現場でも学んでいく必要があると感じているが、この点についてどう考えているのか。

A. 「光文」は、3・4年生の教科書で、性の多様性について1ページを割いて取り扱っている。他社の教科書ではこれだけ大きく取り扱われていなかった。このように、中学年から性の多様性について触れていくことは大切だと考えている。

Q. 「内容の充実と情報量」と「知識の確実な定着」を考え合わせたときに、子どもにとって一番適正だと思うのはどれか。

A. 一番内容量が多いのは「東書」、その次が「光文」になる。子どもが記述するスペースの量で見ても「光文」は2番目になる。内容が多すぎず、書くことによる知識の定着、さらにICTの活用による学習指導等、総合的に判断すると「光文」が良いと判断した。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「光文」を選定した。

(10) 特別の教科 道徳

Q. 2番目に推薦するとしたらどこの教科書か。

A. 「東書」。

Q. 「日文」と「廣あかつき」の道徳ノートについての評価が違うのはなぜか。

A. 「日文」の道徳ノートは自由に記述できるようになっているが、「廣あかつき」の道徳ノートは書くことが細かく示されている。

Q. それは、誘導しやすいという側面があるということか。

A. 誘導しやすくなってしまうということ。学校現場では、現在使用している道徳ノートも、書くことが細かく示されているため、誘導的に感じるところがあり、少し使いにくいという意見がある。しかし、今回の「日文」の道徳ノートは、自由に記述できるスペースが増えて、誘導するということが解消されていると考える。

Q. 前回の道徳の採択では、ノートを使用すると誘導されてしまうので、ノートで選んだのではなく、教科書で選んだということだった。今回はそれも改善されているということだが、ノートを除いても「日文」が良いと判断したのか。

A. 子どもたちに自由な発想で考えさせることができるし、定番と言われ

る教材もしっかり入っているので、「日文」が良いと判断した。

- Q. 情報モラルについてはどの教科書でも扱われていると思うが、「日文」の情報モラルについては、どのような話になったのか。
- A. 特定の今日的な課題について、どの教科書が優れているというような議論はしていない。いじめ、国際理解など様々な課題も含めて総合的に考えた。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「日文」を選定した。

(11) 外国語（英語）

- Q. 中学校で使用している教科書と違う発行者のものを選定した場合、中学校への接続に課題は生じないか。
- A. どの教科書も扱っている表現は基本的には同じなので、中学校との接続に課題が生じることはない。

- Q. 扱っている単語に違いはあるのか。
- A. 小学校段階で扱う単語はある程度決まっているので、教科書の違いによって大きく違うということはない。

- Q. 最終的に「光村」と「啓林館」が候補に挙げたということだったが、この2社が他社よりも優れていた点はどこか。
- A. 教科書を開いたときに、学習内容の配列がよく、1時間の学習の流れが分かりやすいと感じた。他社は情報量も多く、全てを扱うのは難しいと感じた。子どもにとって使いやすいということに焦点を絞ると、この2社が良いと考えた。

- Q. 情報量が多いことが、選定する際のマイナス要因となった理由は何か。
- A. 教科書を開いたときに、たくさんの単語が目飛び込んでくるのは、子どもにとっては負担になるのではないかと考えた。

- Q. 情報量が多いということは、情報を選んだり広げたりすることができるため、子どもを豊かにするという側面もある。情報量が少な過ぎると子どもの学びを少なくしてしまうという懸念はないか。
- A. 教師とALTとのスモールトークを聞いたり、ジェスチャーやピクチャーカードを使用したりすることで補っていくことができるので、扱う単語全てが教科書に表れている必要はないと考えた。

調査員会からの報告後、協議会委員で協議の結果、全会一致で「啓林館」を選定した。

(12) 附則第9条

兵庫県教育委員会の調査研究資料を基に、事務局が調査員会の調査結果を報告した。

(13) 中学校使用教科用図書について

令和2年度に中学校で使用する教科用図書について、平成30年度に新たに文部科学省の検定に合格した図書がなかったため、4年間の使用実績を踏まえ、現在使用している教科用図書を選定した。

国語	「光村」
書写	「東書」
社会（地理的分野）	「帝国」
社会（歴史的分野）	「帝国」
社会（公民的分野）	「日文」
地理	「帝国」
数学	「啓林館」
理科	「啓林館」
音楽（器楽一般）	「教芸」
美術	「日文」
保健体育	「学研」
技術・家庭（技術分野）	「開隆堂」
技術・家庭（家庭分野）	「東書」
英語	「学図」
特別の教科 道徳	「廣あかつき」

3 閉会